

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2006年 12月号(隔月刊) 第88号

いろいろな問題はあるけど、 みんなで元気に暮らそう!

在日外国人をめぐる喜劇の公演
劇団「銅鑼」の『エイジアンパラダイス』



(劇団銅鑼提供/撮影:真野芳喜)

11月23日(祝)に、埼玉県三芳町の「コピスみよし」で、劇団「銅鑼(どら)」による演劇『エイジアンパラダイス』の公演が行われた。三芳町やFICECスタッフを含む周辺住民による実行委員会が、約1年の準備をして行ったもの。

物語は、「エイジアンパラダイス」という在日外国人専門の下宿屋が舞台。そこにはゲイの在日韓国人をはじめ、不法滞在のフィリピン人女性、タイからの留学生などが暮らす。周辺住民やマスコミとのトラブル、差別、警察の摘発などさまざまな問題が起こるが、それぞれがそうした困難を乗り越えて、元気に生きていく人間の活力が描かれている。当日は、301人の観客が来場した。



301人の観客が来場



公演後には出演者とのトーク



地域住民らによる実行委員会



会場ではアジアの物品展示販売も



アジアの子供たちの絵も展示



9月にはプライベートを実施

112号を数える「インフォメーションふじみの」

外国籍市民のための多言語情報誌

約10年間、1号も欠かさずに毎月発行

中国語
韓国語
英語
スペイン語
ポルトガル語
タガログ語
日本語

日本で生活するのに必須の情報を、中国語、韓国語、英語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、日本語で提供。日本語で作成した原稿を、近隣の外国籍市民の協力で翻訳して発行。日本人と外国籍の人たちが一致協力して作られている。

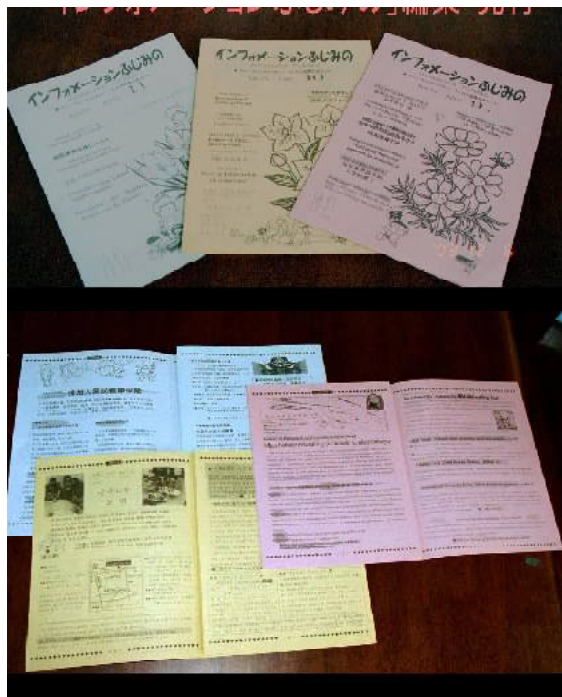
●意外に入手できない 生活情報

外国籍の人たちが日本で暮らそうとしたときに、いちばん困るのが言葉の問題。日本語が十分に理解できたり話したりできればよいが、日本で暮らす外国人の中には、日本語が堪能でない人ももちろん多い。そうした人たちは、日本人が自然に理解できる生活情報も入手するのが難しい。外国人登録をはじめ、住民としての役所の手続きはもちろんのこと、もっと生活に密着した、ほんの簡単なことでも意外にわからない。たとえば、病気にかかったときの医者へのかかり方などは、ときには生死にかかわる問題になるし、ゴミの出し方がわからないと近隣住民とのトラブルにつながることもある。日本人にとっては簡単な事柄でも、大きなトラブルの種になってしまう。

そこで、そうした日常生活に必要な情報を、外国籍の人たちが理解できる複数の言語で提供しようというのが「インフォメーションふじみの」だ。

●FICECの 設立目的の一つ

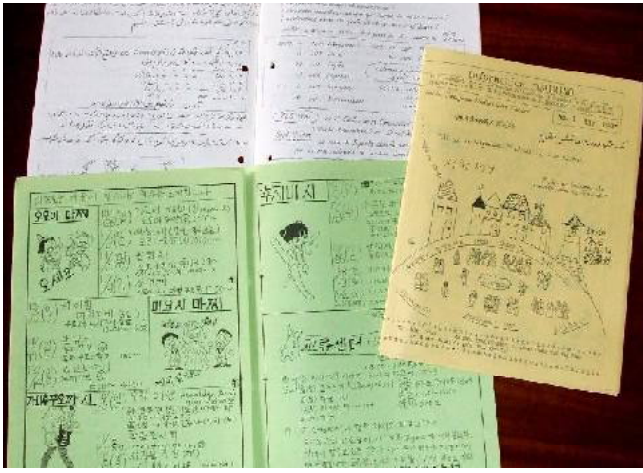
ふじみの国際交流センター（FICEC）理事長の石井ナナエさんは、「生活情報を多言語で提供するのには、FICECを設立した目的の一つで、その最初の会合が、この雑誌の編集会議でした」と話す。



10年前のことなので、みんながパソコンなどを持っているわけではない。しかも日本語だけではなく多数の言語による編集。そこで、創刊当初はすべて手書きでの組版だった。日本語の原稿ができると、外国語のわかる日本人協力者や、当時大井町などにあった日本語教室に通ってきていた外国人が翻訳。その手書きでの原稿をそのまま版下にして印刷した。

当時から編集担当を継続している岩田仁さんは、「同じことを書いても、言語によって文字数が大きく違うんですね。だから、翻訳者が書いてくれたものを、切り貼りしたりして各言語のページに収めるというような作業もしました」と当時のやり方を話す。

創刊当初は、中国語、韓国語、英語などの



創刊当初は手書き原稿で製作

ほか、アラビア語、タイ語などでも表記していた。それは、手伝ってくれる外国人の国籍なども関係していたとのこと。それが年数を経るにしたいがい、現在の日本語を含めた7カ国語に落ち着いたとのことだ。

●ボランティアの協力で 1カ月も欠かさず発行

「インフォメーションふじみの」は、1997年6月にパイロット版として「創刊0号」を発行して以降、1回も休むことなく月刊で発行し続け、今年の12月号が第112号となる。各号単一テーマを1言語見開きページで構成し、それを多言語翻訳して1号としている。そして、印刷されたものは、ふじみ野周辺の市役所など役場や公民館などの公共施設のポストに置かれて、無料配布されている。

これまで取り上げてきたテーマは、入国管理法や国際免許など法律・制度の紹介をはじめ、休日診療所の所在や医者へのかかり方など健康情報、学校・保育園に関する事柄など教育情報、ゴミの出し方や公民館の利用方法など生活情報、さらには近隣の名所旧跡紹介など余暇情報まで、ありとあらゆる必要情報が盛り込まれている。

現在の制作方法は、まず担当者が集まって次号のテーマを決定。FICECでは外国籍の人たちへの生活相談活動などもしているので、そうした情報からテーマが決められる。テーマが決まると、さまざまな資料を集めて、パソコンで日本語の原稿書く。そのファイルを各

国語の翻訳者に渡して翻訳してもらう。

翻訳ができ上がると、その各国語のファイルを1つにしてパソコンで出力。それをFICECの印刷機や折り機で印刷・製本する。そして、完成したものは、やはりFICECのスタッフが近隣の公民館などに配布して回るということになる。

創刊当初の手書き原稿から、現在ではパソコン上での作業となり、印刷機なども公民館などのものを借りていたのが自前になるなど、やり方の変化はあるものの、日本人と外国人とがボランティアでの協力による製作という方法は、いまでも踏襲されている。

(取材：内藤忍)

●スタッフが協力して印刷製本作業



印刷作業

印刷が仕上がる



印刷したものを
折り機で折る

折ったものをま
めて仕上がり



富士見市で「国際交流フォーラム」開催

地域の中で異文化を相互体験

外国籍の人たちが地域で体験している事柄も披露

主催：富士見市、富士見市教育委員会、富士見市国際友好協会

10月15日（日）、富士見市立ふじみ野交流センターで、「2006年度国際交流フォーラム」が開催された。地域で暮らす日本人、外国人がともに集まり、文化的な体験交流や各国語での会話、さらに外国人からは日本での体験などを発表してもらい、地域の中で何ができるかをともに考えようという催し。地域の異文化交流イベントとして、毎年開催されているものだ。

各国の文化を直接体験

当日の会場には、「太極拳の体験」「民族衣装の試着と記念撮影」「茶道体験」「和太鼓体験」「タイ式古式マッサージ」「世界の遊び」「わいわいトーク」など、数多くのコーナーが設けられ、日本人も外国人もさまざまな国で生まれた文化を直接体験した。

主なコーナーの内容と編集委員の感想

● W hat's your nam e? コーナー

自分の名前をハングルとスリランカ語で書いてもらえるとあって、子供をはじめ、大人も喜んで書いてもらっていた。まったく解読できない丸文字のようなスリランカ語で自分の名前を表記されると、ちょっと驚きだった。



● 篆刻体験

どのような文字にするかを決めて、材料を削っていく。細かい作業のため、みんな集中して真剣だった。ボランティアの人や親が、子供を丁寧に指導する様子も見られた。



● 太極拳体験

ゆったりとした動作が特徴。手足をゆっくりと動かすのだが、一度に手と足を動かさなくてはいけないなど、一つのポーズをとることが、実際にやってみると難しかったりする。ポーズが決まると結構サマになる。



● タイ古式マッサージ

足のコースと、肩・腰のコースがある。私は足のコースを体験。ゆったりした音楽が流れ、異国情緒が漂う。適度な痛さのあるマッサージで、普段の疲れをほぐしてくれる。思わず眠ってしまいそうになるほどリラックス

してしまった。

●民族衣装の試着と記念撮影

日本、韓国その他の国々の民族衣装を着て記念撮影をするコーナー。ふだん見慣れない衣服を着た自分を鏡で見て、みんなその印象の違うのに驚いた様子。

●茶道の体験

茶道では、お茶を飲む前に甘いお菓子を食べる。すると、苦いお茶があまりにもおいしくなることにみんな驚き。しかし、外国の人ばかりでなく正座には閉口していたようだ。

●わいわいトーク

外国人と日本人がいくつかのグループに分かれ、一つのテーブルをはさんで何人かでトーク。お互いの国の話、文化の話などで自然と盛り上がっていた。



外国籍の人たちの主張、声

一方、ホールで行われたのが「在日外国人の主張と講演」。ここでは、留学生をはじめ地域で暮らす外国籍の人たちが日本での体験を講演として披露。文化や習慣の違いによる戸惑いや苦勞、地域や職場、学校などのかかわりで感じたことなどを話した。

この中で、中国から来た留学生の女性は、幼稚園での幼児教育現場で、子供を褒めることで伸ばす教育方針に感激。中国との違いなどを実感したとのこと。

また、オーストラリアから来た女性は、日本の学校で職員室があり、先生同士の日常的な連絡ができる環境が素晴らしいなどと話していた。

もちろん、話された内容の中には、日本で苦勞した体験談などもあり、こうした外国人ならではの苦勞は、日本で育ち暮らしてきた立場の人たちには想像もできないこと。主催者の富士見市では、それぞれの住民がこうした外国籍の人たちの体験を理解することで、同じ地域の中で何ができるか考えてほしいとしている。

(取材：石原怜実、上原美樹、王賛博)

たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間(株)オムテック様、青峰社様、海老原夕美法律事務所様、東入間遊戯業防犯協力会様、国際ソロプチミスト様、カトリック上福岡教会様をはじめとして、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言っているかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後ともご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター (FICEC) 理事長 石井ナナエ

バザーなどの売上金で 日本に勉強にきた学生に奨学金を支給 アジアの留学生・就学生と交流する会

埼玉県志木市、新座市、朝霞市、和光市などの市民で作る「アジアの留学生・就学生と交流する会」では、東武東上線沿線の大学などに通うアジア人留学生・就学生を対象として、奨学金を支給する活動をしている。

1987年、新座市のアパートでバングラデシュから来た就学生が餓死するという出来事があった。それをきっかけに地域の主婦や会社員が「自分たちでできる支援をしよう」と、1988年から活動しはじめた。主な目的は、同じような事件を防ぐための経済支援として奨学金を支給することと、留学生と地域の人々との交流をはかることの2つだ。

バザーなどのイベントやロコミを通して集まった会員は約100人。年会費は3,000円だが、それを払う際、自主的に「支援金」を上乗せして5,000円、1万円と納めてくれる人も多い。奨学金は、そうした支援金や、毎年行うバザーの収益などから拠出している。

奨学金は、毎年2～3人に月2万円を1年間支給する。年間24万円だが、これまでに47人の留学生・就学生が支給を受けたとのこと。

毎年4月に奨学金支給の募集を行うが、今年は40人以上の応募があった。応募者には規定

の応募用紙の他、1,200字程度の日本語作文を提出してもらうことになっている。それを5人の選考委員がすべて目を通して、まず6人を選ぶ。その6人に対して面接を行って最終的な支給者を決めるとのこと。「この6人は、誰が選ばれてもおかしくない学生ばかりなので、最終的に選ぶ段階がいちばんつらい」と、会のメンバーは話す。

また、同会では、留学生との交流のために新年会、ミニ講演会、料理会、バザーといった定期行事や、不定期で花見、花火大会見物などの行事も行っている。こうした交流で、留学生の両親なども含めた“家族ぐるみ”の付き合いに発展することもあるとのこと。会員の人たちは、「留学生は、経済的に厳しい中で、勉強にアルバイトにと本当ががんばっている。私たちは、むしろそうした彼らからエネルギーをもらっている感じがします」と話す。さらに、「奨学金としては決して多い金額ではありませんが、とにかく何とか資金を捻出して、毎年出し続けていきたいと考えています」と話している。

(取材：石原怜実、上原美樹、斉藤恵子、内藤忍)



バザーは毎年大盛況



交流する会のメンバーの人たち

問い合わせ先：TEL/FAX：048-477-5920（橋爪）

ホームページ：<http://www.geocities.jp/asianogakusei/>

フィリピンの肝っ玉母さん・小澤ビッキーさん レストラン経営のかたわら、 在日外国人への生活支援活動

上福岡でフィリピン料理レストランの「Kawali」（カワリ）を経営する小澤ビクトリアさんは、友人からは「ビッキーさん」の愛称で親しまれているが、日本人の夫が経営する人材派遣会社を手伝い、さらに「リバティ・インターナショナル」というNPOを立ち上げて、フィリピン人を中心とする在日外国人への生活支援の活動をしている。

カワリは、上福岡駅近くの「一福通り」という飲み屋街にある。もともとは日本料理の居酒屋だったが、3年ほど前にその経営を引き継いで、ビッキーさんがレストランとして開店したもの。肉や野菜をたっぷり使ったボリュームある料理



が自慢だ。夜は12時まで営業しており、日曜日のお昼には1200円で食べ放題が行われていることから、東武東上線沿線ばかりでなく遠方からもフィリピンの人たちが集まって、わいわいにぎやかな昼食になるとのこと。（今年12月15日～来年1月末日までは休業とのこと）

来日して20年のビッキーさんのもとは、在日外国人から月に20件以上の相談が寄せられる。内容は、入管、市役所等の手続きのしかたから、夫婦関係、子供の教育の問題までさまざま。日本語、英語、タガログ語などに堪能なビッキーさんは、そうした相談に具体的な方法や手続きなどを事細かに説明して解決を手伝うとのこと。また、仕事を探しているような場合には、みずからスタッフとして働いている人材派遣会社で仕事を紹介する場合もある。

そんな経験を買われ、今年10月からは週1回、フィリピンでのラジオ放送に出演している。「フィ

リピンの人たちは、日本が簡単にお金を稼げる国だと思い込んだり、だまされたりして来る人たちがすごく多い。そのために、日本に来てからノイローゼになったり、ギャンブルやお酒でお金を使い果たしてしまう人もいます」とビッキーさん。放送では、フィリピンの人たちに、もっと日本のことを勉強してから来日すべきだと、その具体的なアドバイスをしたいと張り切っている。

「相談は、食事どきに携帯電話にかかってくることもあって、そんなときには、夫から『時間を決めてやってくれ』といわれることもある」と笑いながら話す。その一方で、「日本は少子化などで労働力不足の状態。だから、例えば看護師などフィリピン人が手伝える分野が多い。そういう日本とフィリピンをつなぐ仕事や活動をこれからも続けていきたい」と、明るい表情で話してくれた。

（取材：石原怜実、篠島幹昌、内藤忍）



●カワリ ふじみ野市上福岡 5-1-10 Nagasakoビル TEL. 049-267-8501

ホームページ：<http://www.kawali.com>

●リバティ・インターナショナル ホームページ：<http://www.libertyjapan.org>

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

●2005年4月～（50音順・敬称略）

青木和雄、阿澄康子、穴沢エミリン、荒田光男、石井ナナエ、伊藤智明、伊藤真弓、いも煮会、岩田ひさよ、岩田仁、上島直美、エスコラピアス修道士会、江原工業、海老原夕美、遠藤宏子、大関優、太田原裕、小沢ビクトリア、小原富明、(株)オムテック、カクセイジヨ、葛西敦子、加藤久美子、カトリック教会、金子朝子、金子忠弘、神田順子、金文玉、栗島三千代、候、国際ソロブチミスト、後藤泰博、サークルクムスタカ、庄子一雄、申常午、菅山修二、鈴木譲二、鈴木美佐子、高橋郁子、武田和子、田中正江、チョン玄淑、常西カツエ、デュオ、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、仲田京子、中村禎作、萩原千代子、橋本弘美、長谷川正江、羽石貴裕、羽石電気、東入間地区遊技業組合、広木加代子、藤林泰、三芳アジア友の会、百瀬滉、矢野やす子、山崎友理、若林祥文

●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ

<p>日本語教室</p> <p>「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。</p> <p>●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ</p> <p>日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。</p> <p>●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室</p> <p>外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。</p> <p>●月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ</p> <p>上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。</p> <p>●毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<p>中国語教室</p> <p>学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。</p> <p>●毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室</p> <p>韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。</p> <p>●毎週月曜日 午前10時～12時 受講料：1回500円</p>	<p>ポルトガル語教室</p> <p>ブラジルで通訳の仕事をしての方が指導してくれています。</p> <p>●毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室</p> <p>初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。</p> <p>●毎週水曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■日本語しか話せず、海外にも行ったことがない・・・そんな私にもできる身近なところでの国際交流って、とってもいいものです！今月号から本格的に参加させてもらっています。よろしくお祈りします！（石原）

■先日、新宿区立大久保小学校に見学に行きました。全児童160人中100人が、片親もしくは両親が外国人という学校です。副校長の「それぞれが違うのが当

り前の環境で育っているから、障害がある子がいても、当たり前を受け止める」という言葉が印象的でした。（上原）

■気がつけば師走、今年も残り少なくなってきました。編集委員として技術が上達しているかは何とも言えませんが、以前に比べ文章を書くことに面白みを感じています！これからは編集長に鍛えてもらいながら頑張りたいと思います！そして文章能力に限らず広い視野や考え方も身につけて

いければと思います！（篠島）

■最近、とみに地域で外国の人を見るのが多くなった。お互いに声をかけあって暮せたらいいと思うのだが、もう30年も世知辛い関東で暮らしていると、知らないうちに「袖摺り合うも他生の縁」を忘れてしまっていることに気づく。ぜひ、勇気を出して、肌の色や顔つきの違う人たちと、気軽に挨拶できるようにしたいと、しきりに思っているのだが。（内藤）

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）
 編集委員（50音順）：青木和雄、秋山理恵、阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、高橋良子、内藤忍、長谷川正江、広木加代子、山崎友理